

平成22年6月18日

国際協力局開発協力企画室

1. D A C対日援助審査 (Peer Review)

6月16日、OECD開発援助委員会(DAC)は、対日援助審査の結果をまとめた報告書を公表した。

DACの主要活動の一つである援助審査は、4－5年に1度、DAC加盟国のうち2か国がDAC事務局とともに審査団を構成し、被審査国に対して本国審査及びフィールド調査を実施し、援助審査報告書を作成する。今回の対日審査では、独とデンマークが審査国となり、昨年10月に東京で本国審査、10月から11月のフィールド調査ではバングラデシュとケニアを訪問した。本年5月20日には、OECD本部でDAC加盟国による援助審査会合が開催され、報告書がまとめられた。

2. 援助審査報告書概要

- (1) 我が国の援助に関し、前回の援助審査時(03年)から進展した点として、新JICAの発足及び外務省国際協力局の再編、現場主義の強化、ODAに対する世論の支持の増加、分野横断的課題(ジェンダー)の主流化等を挙げている。また、ODAに関する省庁間の調整、アフリカへの援助拡大、新政権のNGO重視、アカウンタビリティ重視の姿勢、能力開発、南南協力等の援助効果に対する取組を評価している。
- (2) 一方で、今後の検討課題として、ODA量の増加、開発のための政策一貫性(途上国の開発を促進するために我が国の諸政策間の整合性を高める)の取組の強化、NGOとの更なる関係強化、広報戦略の策定、国際機関への拠出に関する戦略の策定、業務の合理化、アンタイド報告の改善の必要性につき指摘している。

3. 主な勧告 (勧告一覧は別添)

- (1) 援助量増加：援助量増加のための工程表を設定する。複数年度のODAの枠組及び大まかな配分を提示するため、政治的な支持を得る。
- (2) 開発のための政策一貫性：「開発のための政策一貫性」を政策文書に反映し、認識の向上、能力の強化を行う。
- (3) ODA全体のグラント・エレメント：援助条件に関する1978年のDAC勧告(ODA全体のグラント・エレメント86%以上)を満たすように、ODAの構成を見直す。
- (4) NGO支援：明確なNGO戦略を策定する(スキームの簡略化、対話の継続)。
- (5) 国際機関への拠出に関する戦略の策定：国際機関への拠出に関する戦略を策定する。イヤーマーク及び日本独自の別基金への拠出よりもコア拠出を重視する。
- (6) 評価：外務省内の評価担当部署の配置を見直し、独立性を確保するとともに、他省庁の事業の評価も含め、然るべき権限と調整機能を付与する。
- (7) アンタイド：アンタイド化の推進を継続。無償資金協力の契約者の役割を明確(調達エージェント/監理/供給)にし、調達エージェントでない場合にはタイドとして報告する。

(了)